

斐太北小 ESDだより

Education for Sustainable Development(持続可能な社会の創り手を育む教育)

ふるさとを歩き、ふるさとを感じ、未来へつなぐ150周年

今年、私たちの学校は創立150周年という大きな節目を迎えました。この記念すべき年の「フレンドミッション」は、いつもの活動を一歩進め、斐太のまちを歩き、ふるさとの魅力を五感で感じながら、児童・保護者・地域の皆さんがふれあう特別な一日となりました。

史跡を訪ねて学び、公園で昔の遊びを楽しみ、地域の方々に自ら挨拶をする——見シンプルな行動の中に、未来をつくる力が宿っています。学ぶ力、遊ぶ力、そしてつながる力。それらはすべて、持続可能な社会を築いていくための基盤です。

今年は、教職員もそれぞれの部門で企画や運営に協力し、児童と同じように「協働する力」を発揮しました。「学ぶ」「遊ぶ」「つながる」を通して地域と子どもたちの未来をつくっていく——まさに本校が大切にしている、ESD(持続可能な開発のための教育)の実践のひとつです。

この地域と共に歩む学校であり続けたい。そんな想いを込めた一日でした。ご参加、ご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。



二尺八寸の観音様におまいりし、木魚も叩かせてもらいました



CS委員の朝の打ち合わせ風景



推定500年以上市内で最も大きな老齢のケヤキです



下十日市の公民館で楽しいおやつタイム中



下十日市にある馬頭観音の説明中



野菜の缶とフォークリフトに皆興味津々

縦割り班で、CS 委員も保護者ボランティアも一緒に豚汁とおにぎりをほおばりました。



チーム豚汁の皆さん、美味しくて、即完食でした★ありがとうございました



150周年記念豚汁の味は最高でした!



各班集めたポイントシールを貼り横断幕を完成させました🇳🇵



↑ 写真提供:CS 事務局長📷

命を想う心 ～斐太北小学校の日常から～

ある日の昼休み、グラウンドで子どもたちが野鳥の卵を見つけました。そっと踏まれないように場所を動かしてくれた子もいましたが、昼の放送で「野鳥の卵には触らず、そっと見守ることが大切です」と呼びかけました。親鳥が育児を放棄してしまうおそれがあるからです。

その翌日の放課後、残念ながら割れてしまった卵が見つかり、中には血管の見える小さな命が……。それを見た子が「かわいそうだった」と、目を伏せながら話してくれました。

子どもたちは、お墓を作り、花を散らし、さくらんぼの赤い実や宝石のような小石を供えて、その命に祈りを込めました。そばには一緒に手伝うお母さんたちの姿もありました。

この時、グラウンドには学年をこえて仲よく遊ぶ子どもたちと、それを見守る保護者の皆さんが20人以上いました。親子でキャッチボールを楽しむ姿もありました。次々にこの話が伝わって、円くなって子どもも大人も関心をもって小さな命にかかわる様子が見られました。



また別の朝、ある子が登校後、昇降口前の植木鉢の花の世話をしてくれました。咲き終わった花を一本一本、はさみで丁寧に、まるで語りかけるように優しく切っていく姿に、思わず見とれてしまいました。



「こうやって世話をすると、また新しいつぼみに栄養がいった、花が咲き続けるんだよ」と校長と話しながら、静かに作業を続けました。「花は人の声を聞いているし、気持ちを感じ取れるとも言われているよ」「優しく切ってくれて、この花はまた咲こうってきっと思っているね」と伝えると、その子は「この花、マーガレットって名前なんです」と名前を確かめて、教室へと向かっていきました。

これらの出来事は、ユネスコスクールとして斐太北小学校が大切にしている「命を尊ぶ心」「自然と共に生きる感性」「他者への思いやり」といったESDの学びが、日々の暮らしの中で育まれていることを感じさせてくれます。小さな命に心を寄せ、静かに自然と向き合う子どもたちの姿。その一つ一つが、持続可能な社会をつくる力の芽として、確かに育っています。